



Climate & Population × DJAIRI

気候と人口 × デジタル・アル＝ジャザリー AI・研究
イノベーション機構



デジタル・アル＝ジャザリー AI・研究イノベーション機構 (DJAIRI)

Digital Al-Jazari for AI & Research Innovation (DJAIRI)

受け継いだ知を、未来を創る力へ

人工知能、応用研究、スマートラーニング、学術出版、フィールドワークを結びつけ、人・環境・未来の課題に対して実践可能な知識ソリューションを生み出すヨルダンの組織です。

digitalaljazari.org | djairi.org

◆ 私たちについて

デジタル・アル＝ジャザリー AI・研究イノベーション機構（DJAIRI）は、2015年10月14日にアンマンで設立されたヨルダンの組織です。ヨルダン・ハシェミット王国の正式な法制度の下で活動し、2025年5月5日に現在の名称と組織アイデンティティ「Digital Al-Jazari for AI & Research Innovation」を採用しました。これは、従来型の知識活動から、人工知能、研究、イノベーション、デジタル学習、フィールドワークを統合するモデルへと発展してきた組織の方向性を、より明確に示すものです。

DJAIRI はヨルダンの関係政府当局から認可を受け、ヨルダン・ハシェミット王国で適用される法令および規制の枠組みに従って活動しています。

DJAIRI はヨルダンを拠点としながら、アラブ地域および国際的な視野で考え、行動しています。私たちは人工知能を目的そのものとは捉えず、知識へのアクセスを広げ、研究を改善し、学習を加速し、データとアイデアを現場で検証可能な実践的解決策へと変えるための手段として位置づけています。

⚙️ なぜ「アル＝ジャザリー」なのか

「アル＝ジャザリー」という名称は、アラブ科学の伝統を称えるだけのものではなく、私たちの思考法そのものを表しています。12～13世紀を代表する技術者の一人、バディーウッザマーン・アブー・アル＝イズ・イスマーイール・アル＝ジャザリーは、理論知、観察、設計、実験、実用的な機械の製作を結びつけました。代表作として知られる『巧妙な機械装置の知識の書』に体现されるのは、「知識と有用な実践を結ぶ」精神です。DJAIRI がデジタル時代に受け継ごうとしているのも、この知から行動へ向かう姿勢です。現実の課題から出発し、使える解決策へとつなげるイノベーションを目指します。

🎯 私たちの活動方法

組織の活動は、スマートラーニング、研究とイノベーション、デジタル学術出版、フィールドワーク、知識プラットフォームの構築という相互に連携する領域を通じて進められます。目標は、知識を論文や研修室の中にとどめず、誰もがアクセスできるコンテンツ、測定可能なスキル、意思決定のためのツール、現場での実践、協働ネットワークへと転換することです。

👥 人を中心に：女性、子ども、若者、そして不利な立場にある人々

DJAIRI は、女性と女兒、子ども、若者、そして経済的・社会的・地理的・デジタル上の障壁によって知識や機会へのアクセスが制限されている不利な立場や周縁化された人々を特に重視しています。各プロジェクトの性質に応じて、農村部や低所得地域の女性、難民や危機の影響を受けた人々、若い女性リーダー、子どもと青少年、より公平な学習・参加・エンパワーメントの機会を必要とする若者を対象とします。

私たちは、これらの人々を単なる「受益者」とは考えていません。参加し、知識を共につくり、デジタル・研究ツールを活用する力を広げることを重視しています。この考え方は、研修、デジタル学習、地域活動、子ども・若者向けの取組、女性のエンパワーメント、アクセス障壁を低減するプラットフォーム設計に反映されています。「Mahara wa Shahada（スキルと証明書）」では、証明書料金の支払い前から学習教材にアクセスできる仕組みを採用し、知識へのアクセスを基本に据えつつ、証明書は学習の修了、合格、検証可能な成果に結びつけています。

Mahara wa Shahada（スキルと証明書） | スマートラーニング・プラットフォーム

「Mahara wa Shahada」はDJAIRIを代表するデジタルプロジェクトの一つで、学習者に最も直接的にサービスを提供する取組です。アラビア語話者向けのスマートラーニングと体系的な自主学習のプラットフォームとして設計され、学習者とコンテンツの間の障壁を減らします。利用者はアカウントを作成し、自由にコースへ参加し、教材を学び、自分の理解度を確認します。合格要件を満たすと、検証可能なデジタル証明書を取得できます。

2026年9月時点で、同プラットフォームには16の知識分野にまたがる253の研修コースがあります。拡充の方針は分類を数で埋めることなく、学習者が実際に必要とする内容を増やすことです。同時に、学生、社会人、研究者、プロジェクト実践者がそれぞれの必要に応じて能力を伸ばせるよう、幅広い知識領域を維持しています。

2 - 金融・ビジネス	1 - リーダーシップと起業家精神
4 - メンタルヘルス	3 - 医学・健康
6 - 基礎科学	5 - 教育・学習
8 - テクノロジー・人工知能	7 - 工学・エネルギー
10 - 法律・安全保障	9 - 環境・農業
12 - 言語	11 - 人文・イスラーム研究
14 - パーソナルスキル	13 - メディア・コミュニケーション
16 - 芸術・文学	15 - 観光・考古学

このプラットフォームでは、証明書を単なる購入物ではなく、学習と評価の成果とすることを重視しています。そのため証明書の発行は、最終テストの修了と合格に連動します。一方で、学習教材は証明書料金の支払い前から閲覧可能です。証明書は多言語のデジタル形式で提供され、検証機能と明確な組織アイデンティティを備えています。

プラットフォーム：<https://skills-workshops.org/>

気候・人口・乾燥地域

DJAIRIは、気候と人口を別々の課題として捉えていません。水、食料、移動、定住形態、地域の健康、雇用機会、土地利用は、同じシステムの中で相互に関係しています。そのため、乾燥・半乾燥地域、水資源管理、植生

回復、干ばつに適応した農業、自然を基盤とする解決策、気候変動に対するレジリエンスに重点を置いています。

この関心は、気候と人口に関する研修コンテンツ、分析資料、知識ツールの開発にも広がっています。また、気候・人口・経済の変化の関係を、研究者、関係者、意思決定者がより統合的に読み解けるよう、プラットフォームや指標の整備を進めています。

オフィスから現場へ

DJAIRI が大切にしているのは、アイデアを画面の中だけにとどめないことです。活動の重要な部分は現場に向かい、特にヨルダンのバディア（乾燥地域）や降水量の少ない環境を対象としています。代表的な取組の一つが、ウム・アル＝ジマル（Umm Al-Jimal）に残る歴史的な雨水利用システムの記録と理解です。そこには、貯水池、水路、沈殿槽、井戸、覆い付き貯水槽、屋根集水、余剰水を畑へ導く仕組みなどが含まれます。

この関心は、北部バディアのデイル・アル＝カフ（Deir Al-Kahf）のような実践サイトにもつながっています。私たちは、地域に受け継がれた知恵と現代的な手法をどう組み合わせられるかを検討しています。雨水の収集、土壌への水分補給、浸透型ガーデン、植生回復、そして研究・測定・地域研修との連携です。私たちにとって現場は宣伝の背景ではなく、アイデアを検証し、何が機能し、何を改善すべきかを学ぶための開かれた実験室です。



DJAIRI チームによる乾燥農業環境でのフィールド記録。環境観察を記録・研究と結びつけています。



北部バディアのデイル・アル＝カフで行った現地測定。サイトの状況と生態系回復の可能性を記録しています。

DJAIRI のアーカイブには、乾燥地域でのチームのフィールドワークを記録した写真資料が保存されています。

メディアでの紹介：活動の軌跡を可視化する

DJAIRI の活動は、特に現場・環境・地域社会に関わる取組を中心に、継続的なメディアの関心を集めてきました。組織のメディアアーカイブには、新聞や各種メディアプラットフォームに掲載された約 29 件のリンクが保存されています。私たちはこのアーカイブを、取組の歩みを記録し、その公共的な影響をフォロワー、パートナー、研究者に示すための基礎資料として活用しています。

この記録には、Ammaniyat News、Ammon、Al-Anbat、Dar Horan、Balqi News、Al-Sharit、Juhayna News、Shaab News、Nabd Al-Balad、Soura Magazine、Al-Sabah、Afaq Horra、Al-Marfa News などが含まれ

ます。報道は、ウム・アル＝ジマルの雨水利用の知恵、デイル・アル＝カフでの植生回復、ヨルダン溪谷北部でのフィールド学習などを取り上げました。私たちはメディア報道を科学的測定や独立評価の代替とは考えず、現場の活動の展開を公開情報として追跡できる記録と位置づけています。

「私たちにとって、技術は現場の代替ではありません。現場をより深く理解し、活動の影響を測り、知識を現場と研究のあいだで循環させるための手段です。」

新しい学術出版モデルをめざす学術誌

DJAIRI は、従来型の学術誌の形式を単に再現するのではなく、科学・学術誌と知識発信サイトの新しい体系を構築しようとしています。目指しているのは、研究論文をより見つけやすく、理解しやすく、活用しやすくすることです。デジタル表示の改善、分かりやすい知識要約、出典やデータとの接続、多言語対応、より広い読者層へ研究成果を届けるための仕組みを整えつつ、学術的厳密さと査読の要件を守ります。

この出版体系では、気候、人口、乾燥地域を特に重視し、特集や、環境・社会・経済・政策・技術を結ぶ学際的研究を扱っていく方針です。

▣ New Human Knowledge Research

変化し続ける人間知を扱う研究プラットフォームで、学際的研究や、社会・文化・デジタル変容に応答する研究の場を提供します。

<https://global-journal.org/>

▣ Digital Integration Era

デジタル技術、人工知能、コミュニケーション、組織、社会の融合が生み出す変化と、そこから生じる新しい研究・応用上の問いに焦点を当てます。

<https://diejournal.org/>

▣ Digital Life & Technology

テクノロジーが日常生活、仕事、教育、社会に与える影響を扱い、デジタル変革、新興技術、その応用に関するテーマを受け入れます。

<https://digitallt.org/>



Mustanef：法分野に限定せず、思考を再び始めるために

「Mustanef」は、法律だけに限定されない知識プロジェクトとして構想されています。政策、社会、法律、倫理、テクノロジー、文化、環境、ガバナンスが交差する問いについて、思考、対話、研究を再開するための場をつくるのが中心的な考えです。その名称自体に、問いを改めて立て、前提を見直し、より複合的に読み直す必要のあるテーマを開くという意味が込められています。

この構想のもとで、Mustanefは分析記事、解説特集、対話、書評・知識レビュー、マルチメディア資料を掲載し、専門研究と成熟した公共的議論を結ぶ橋となることができます。気候、人口、水、環境正義、公共政策も、単一分野からでは十分に理解できないため、このプラットフォームに自然に位置づけられます。

ウェブサイト：<https://mustanef.org/>

🌐 デジタルサイトのエコシステム

私たちは各ウェブサイトを独立した紹介ページとは考えず、一つの相互接続されたエコシステムの構成要素として設計しています。そこには、組織サイト、学習プラットフォーム、学術誌、専門テーマのプラットフォームが含まれます。連携が進むことで、利用者は一つのアイデアやニュースからコースへ、コースから研究やジャーナルへ、さらに研究からフィールドプロジェクトやデータプラットフォームへ移動できるようになります。

役割	名称／リンク	種別
組織、プロジェクト、活動、ネットワークを紹介。	Digital Al-Jazari https://digitalaljazari.org/	現在の公式サイト
組織アイデンティティの簡潔なデジタル入口。 主サイトと連携する完成済み基盤の一部。	DJAIRI https://djairi.org/	短縮公式ポータル
16 の知識分野にわたるコース、テスト、デジタル証明書。	Mahara wa Shahada https://skills-workshops.org/	スマートラーニング
思考、対話、研究を横断的に扱う知識空間。	Mustanef https://mustanef.org/	知識プラットフォーム
人文・知識分野の新しい学際的研究。	New Human Knowledge Research https://global-journal.org/	学術誌
デジタル変革、AI、テクノロジーと社会の融合。	Digital Integration Era https://diejournal.org/	学術誌
生活、仕事、教育、社会におけるテクノロジー。	Digital Life & Technology https://digitalit.org/	学術誌
 スマートラーニング・研究とイノベーション・フィールドワーク・学術出版 		

🔗 共通するアイデンティティ：学びから研究へ、研究から社会的インパクトへ

DJAIRI の各プロジェクトを貫く一本の軸があるとすれば、それは「知識をインパクトへ変える」ことです。

「Mahara wa Shahada」は知識を学び、評価できる形にします。学術誌は知識を出版し、査読し、蓄積できる形にします。Mustanef は知識を多角的な対話と分析へ開きます。フィールドワークは知識を現実の中で検証します。テーマ別プラットフォームは、データ、政策、フォーサイトを、気候、人口、水、乾燥地域といった具体的課題に結びつけます。

このモデルによって、組織は小規模な中核チームで活動しながら、研究者、ボランティア、パートナー、専門家からなる広いネットワークと連携できます。また、研修教材や初期研究から始め、プラットフォーム、フィールドプログラム、国際協力へと段階的に拡張できるプロジェクト設計が可能になります。

◆ これから目指す方向

次の段階のキーワードは「統合」です。ウェブサイトとプラットフォームを一つのアイデンティティのもとでつなぎ、研究・学習・出版において人工知能を責任ある形で活用し、より優れた検証・測定ツールを開発し、気候、人口、水、レジリエンス分野での活動を拡大します。同時に、組織の根本理念は変わりません。行動に結びつかない知識は不十分であり、知識に支えられない行動は持続しにくい、という考えです。

DJAIRI とそのデジタルエコシステムの最新情報：

digitalaljazari.org • djairi.org • skills-workshops.org

本資料は「Climate & Population」プラットフォーム日本語版での公開を目的として作成され、DJAIRI の教育、研究、出版、フィールド活動を紹介するものです。